

## 蛙さんの遠足のお話

武田雪夫

さあさあ、これは蛙さんの遠足のお話なのですよ。

あるところに、蛙さんのお家がありましたよ。——そら、お父さん蛙がりました。ほら、お母さん蛙がりました。はい、それから、かはいいい子供の蛙さんも、ごつさりをりましたよ。

ある日の朝の朝のここです。お父さん蛙が、お目々をさまして、起きるさ、大きな聲で言ひました。

「ガッコ、ガッコ、ガッコ、まあまあ、今日は何てよいお天気だらう。ガッコ、ガッコ。」

するさ、お母さん蛙も、大きな聲で、

「ケロ、ケロ、ケロ、ケロ、おやおや、ほんごによいお天気ですごさ。それでは、今日は、

家中みんなして、遠足に行きませう。」「言ひました。

するさ、子供の蛙さんたちは、大よろこびで、

「コロ、コロ、コロ、コロ、うれしい、うれしい。」

「コロ、コロ、コロ、コロ、遠足だ、遠足だ。」

「コロ、コロ、コロ、コロ、さあさあ早く行きませう。」

そこで、蛙さんたちは、朝のご飯をすますさ、お仕度をして、みんなで仲よく、遠足に出かけました。

お父さん蛙は、ほそい草の枝をステッキに持つて、一ばん先頭をはねて行きました。それから、子供の蛙さんたちが、一列に上手にならんで行きました。

お母さん蛙は、まるい草の葉っぱをお日傘にして、頭の上にさして一ばんうしろから、ついて行きました。

お父さん蛙が、ビヨコン、ビヨコン、ビヨコン、ビヨコン。

子供の蛙さんたちが、ビヨーン、ビヨーン、ビヨーン、ビヨーン。

それからお母さん蛙が、ビヨコリ、ビヨコリ、ビヨコリ、ビヨコリ、ビヨコリ、みんなではねて行きました。

さうすると、明るい明るいお日さまが、頭の上から、キラキラ、キラキラ照りつけて、まあ、あついで、あついで、あついで。

蛙さんたちは、みんな、ほんごに困つてしまひました。すると、ちやうどよいことに、すぐそこに、大きなお池がありました。

「ガッコ、ガッコ、あそこに池があるよ。」

さう、お父さん蛙が言ひました。すると、お母さん蛙が、

「ケロ、ケロ、ケロ、まあ、きれいなお池ですわ。みんな、およませせう。」と言ひました。

子供の蛙さんは、大よろこびです。

「コロ、コロ、コロ、コロ、うれしいな、うれしいな。」

さう言つて、いきなりビヨーンビヨーンで行きました。そして、チャブン、チャブン、チャブン、チャブン、お池の中へごみましました。

お母さん蛙も、そのあとから、ビヨコリ、ビヨコリ、ビヨコリ、ビヨコリ、ビヨコリ、ビヨコリ、みんなで行つて、子供たちのあとから、

お水の中へ、チャブンミ、ミビこみました。

そのあとから、こんどはお父さん蛙が、ビヨコン、ビヨコンミ、こんで行つて、お母さん蛙のそばへ、ボチャンミ、ミビこみました。

お水が、パチャーンミ、お母さん蛙や、子供の蛙さんのお顔に、はねかかりました。

お母さん蛙は、びつくりして、ひよいごお水の中へもぐりこんで、スイスイとおよぎました。子供の蛙さんも、お母さんのまねをして、水の中へもぐつて、スイスイとおよぎました。

さうするミ、お父さん蛙も、まけずにスイスイミ、もぐつておよぎました。

お母さん蛙が、一ばん先に、

「ケロ、ケロ、ケロ、まあ、すすしくなりましたこと。さあ、少し休みませう。」と言ひながら、ビヨコリミお池の岸にミビ上りました。

するミ、子供の蛙さんたちも。

「コロ、コロ、コロ、コロ、ああ、すすしくなつた、すすしくなつた。」と言ひながら、ビヨン、ビヨン、ビヨン、ビヨン、お池の岸にミビ上りました。

お父さん蛙も、一ばんあとから、ビヨコンミ、岸へミビ上つて、

「ガッコ、ガッコ、おお、すすしくなつた。それでは、みんなで、ここで休みませう。」

さう言ひながら、その草の中へ入つて行つて、そこへ坐つて、休みました。

するミ、お母さん蛙も、そのそばへ、坐りました。それから子供の蛙さんたちも、すぐに、その草の中へ坐りました。

その時、一びきの子供の蛙さんが、小さな聲で言ひました。

「おや、大へんだ、お辨當を忘れて来たよ。」

もう一びきの子供の蛙さんが言ひました。

「ああ、ぼく、おなかが空いて来たよ。」

お母さん蛙にも、お父さん蛙にも、それがよく聞えましたが、ぎうしたのでせう、知らない顔して、だまつてゐます。

そこへ、ここからか、小さな翅のはえた蟲が、ブンブンブンと、こんで來ました。

するさ、お父さん蛙は、ハツと大きな口をあいてビョコンとこび上げるさ、バクッとその蟲を取つて食べてしまひました。

ああ、また、ブンブンと小さな蟲がこんで來ました。こんどは、お母さん蛙が「ビョコリ」とこび上つて、バクッとその蟲を食へました。そして、子供の蛙さんたちに、

「ほら、今日のお辨當は、これですよ。」と言ひました。

その時、また、ここからか、ブンブン、ブンブン、ブンブンと、こんどは、たくさんたくさんの蟲が、こんで來ました。

するさ、子供の蛙さんたちは、

「やあ、こんで來た、こんで來た。お辨當がこんで來たよ。そら、そら、そら。」と言つて、

みんなでビョンビョン、ビョンビョン、ビョンビョンとこび上つて、たくさんたくさん、蟲をこつて食へました。

お父さんとお母さんの蛙は、子供の蛙さんには、さてもこびつけないやうな、高いところをこんでゐる蟲を、バクッバクッと、こつて食へました。

蟲は、こつさりこんで來ました。

ブンブン、ブンブン、ブンブン……………。

バクッバクッ、バクッバクッ……………。

ああ、みんな、ほんごにたくさん蟲を食へました。おなかが、一ぱいになりました。みんな、そこへ坐つて、休みました。

しばらく、たちました。

お父さん蛙が、気がつくミ、おやおや、お母さん蛙も子供の蛙さんも、みんな、おねんねしてゐます。

お父さん蛙は、大きな聲で言ひました。

「さあさあ、みんな、おきなさい。そろそろお家へ歸りませう。」

みんなびつくりして、お目々をさました。そして、お家の方へ、かへつて行きました。

一ばん先に、お父さん蛙が、ビヨコン、ビヨコン、ビヨコン、ビヨコン。

そのあとから、子供の蛙さんたちが、ビヨコン、ビヨコン、ビヨコン、ビヨコン。

一ばんあとから、お母さん蛙が、ビヨコリ、ビヨコリ、ビヨコリ、ビヨコリ。

するミ、その時、お空が、黒くなつたかと思ふミ、ザアザア、ザアザア、ザアザアミ、大雨がふつて來ました。

蛙さんたちは、びつくりして、大いそぎで、にげ出したでせうか。

いいえ、いいえ。みんな、平氣で、

「ああ、すずしい、すずしい、よい氣持、よい氣持。」ミ大よろこびで、雨にザアザアぬれながら、前と同じやうに、ゆつくりゆつくりはねて行きました。

ビヨコン、ビヨコン、ビヨコン、ビヨコン。

ビヨコン、ビヨコン、ビヨコン、ビヨコン。

ビヨコリ、ビヨコリ、ビヨコリ、ビヨコリ。

ザアザア、ザアザア、ザアザア、ザアザア。

ビヨコン、ビヨコン、ザアザア、ビヨコン、ビヨコン、ザアザア。ビヨコリ、ビヨコリ、ザアザア。

蛙さんたちは、さんざんはねて行きました。

ほら、むかうに、蛙さんのお家が見えて來ました。では、この蛙さんのお話は、これでおしまひです。